日赤医学　第57巻 第2号 375－378 2006

<原　著>　　第41回　日本赤十字社医学会総会　優秀演題

「5S職場活性化活動」をテーマとした看護助手研修の効果

福島赤十字病院　看護部
會澤英子　大槻イマ子　伊藤とし子　鈴木祐子

The effect of "5S activities" on education of nurse's aid

Hideko AIZAWA, Imako OTHUKI, Toshiko ITO, Yuko SUZUKI
Nursing Department, Fukushima Red Cross Hospital

Key words：看護助手研修，5S職場活性化活動，目標管理

はじめに

当院の看護助手研修は，集合教育による情報提供や技能研修が中心で，看護単位ごとに目標を決めて実践活動をするときも看護師が主体で看護助手は受身的であった。

平成14年度より，看護部では目標管理を導入し，個人の業務に対する満足感や達成感を引き出すことができるような，主体的な活動を支援する企画に取り組んでいる。

実践活動の具体的な目標として，平成15・16年度は，病院の改修工事，SPD導入があり，17年度には病院機能評価受審を控えていた。

平成15・16年度の看護部による看護助手研修の実践活動を通し，看護チームの一員として患者に清潔で安全な療養環境を提供することが，職員としての成果責任であることを認識できた。さらに，活動の過程や成果が評価を受けることで職務満足度の向上に良好な結果を得ることができたので，ここに報告する。

Ⅰ．目　　的

1）看護助手研修に5S活動を取り入れ，環境整備や業務改善を主体的に実践することができる。

2）活動の経過，成果を看護単位ごとにまとめ，全体に発表することにより成果が評価され，職務満足度の向上や達成感の獲得に繋げることができる。

用語の定義：病院5Sの用語は，整理（Seiri）整頓（Seiton），清掃（Seiso），清潔（Seiketu）しつけ（Shitsuke）のローマ字の頭文字で表したものである[1)]。

Ⅱ．方　　法

1）看護助手研修は看護部教育委員会が企画，看護単位毎に実践活動を行う。

2）活動は日々の業務と併せて行うため，各部署の看護師長が支援に当たる。

3）全体研修は，①講義，計画説明　②進捗状況の確認　③成果報告発表会　と進める。

Ⅲ．対　　象

看護助手は，平成15年度は22名で7病棟と中央材料室に配置。平成16年度は8病棟と中央材料室の他に，主に診療介助を中心に行う嘱託の助手（メディカルクラークと呼称）を外来に配置し28名となった。

年代構成は，20歳，30歳，40歳代の各年代に8名づつ，50歳代に4名である。

Ⅳ．取り組みの経過

1）平成15年度看護助手研修

（1）目的：主体的に活動し患者の入院生活の質の向上が図られるように，話し合いや取り組みができる。

（2）内容：6月　研修計画の説明。講義「患者に喜ばれる看護助手業務について考える」（講師は看護副部長）。7月　実践計画の発表。12月　実践活動報告会。

（3）経過：取り組みのテーマは「環境整備」である。改修工事のため，病棟の引越しやSPDの導入を実施。6月に説明をし，12月に報告会を行った。看護助手が自分たちの取り組みをまとめ，全体で報告会を開くのは初めての試みであった。報告会には師長，係長の他に各部署の看護師も参加した。

2）平成16年度看護助手研修

（1）目的：5S活動の実践を通して，看護チームの一員として，療養上の世話，環境整備及び診療の補助にかかわる周辺業務を，責任を持って行えるようにする。

（2）内容：7月　研修計画の説明。講演「5Sによる職場改善の進め方」（全職員を対象に外部講師を招く）を聴く。10月　進捗状況の報告会。12月　発表方法について説明。平成17年1月　5S実践活動報告会。

（3）経過：翌年に病院機能評価受審を予定していたことから，5S活動は，看護部が推進役となり院内全部署で取り組んだ。報告会は看護師のリーダーシップ研修の成果報告と合わせて部署ごとに行い，多くの看護スタッフと成果を共有した。また，効果的な発表を意識し，実践活動取り組みの前後の様子をデジカメで撮影しパワーポイントを使って報告した。

V．結　　果

1）平成15年度の成果

病棟の改修工事に伴い，引越し作業をスムーズに進めるために，それぞれの部署内で担当区域を決めて整理整頓，清掃を行った。不要品を捨て収納場所を確保できたことでSPDが導入され，定数管理，定位置を固定する為のラベル表示が定着した。

また，ベッドの清掃とベッド周囲の環境整備を計画的に行えるよう自主的に業務改善を図ることができた。

2）平成16年度の成果

5S実践活動報告会では，以下（表1，図1～図5）のような結果が得られた。

表1　報告会での主な内容

成果	・作業効率が上がり、物が取り出しやすくなった。在庫の見直しもできた。 ・清潔、不潔の区域を明確にすると共に、消毒薬の種類を選定し定数管理にした。 ・棚の移動、ダンボール箱のリサイクルで収納がコンパクトになり、見た目もよくなった。 ・担当区域を分担することで責任を持って作業を進め維持することをアピールしていった。 ・5S活動の意識が高まり、看護助手と看護師が一体となり問題解決に取り組んだ。 ・看護助手同士でも、部署を超えて協力し合った。
感想	・使いやすくて美しい。快適になりうれしい。 ・見やすいので事故防止、実施もれ防止につながる。 ・以前より安全で清潔な療養環境を提供できるようになった。 ・部署と個人の目標達成に貢献できてよかった。

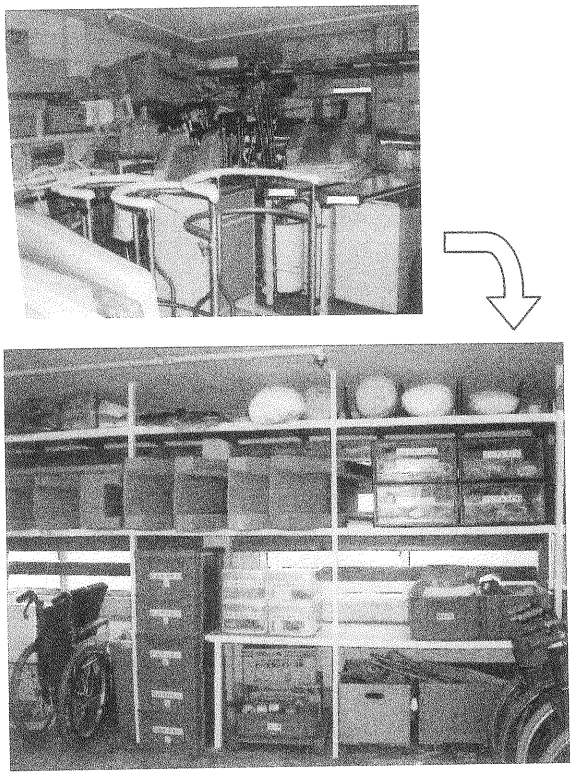

図1　整形外科病棟倉庫

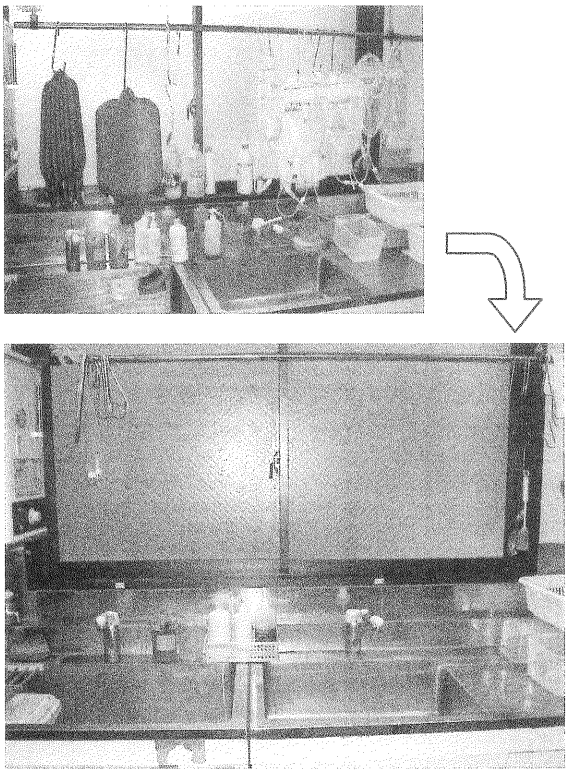

図2　処置室水回り

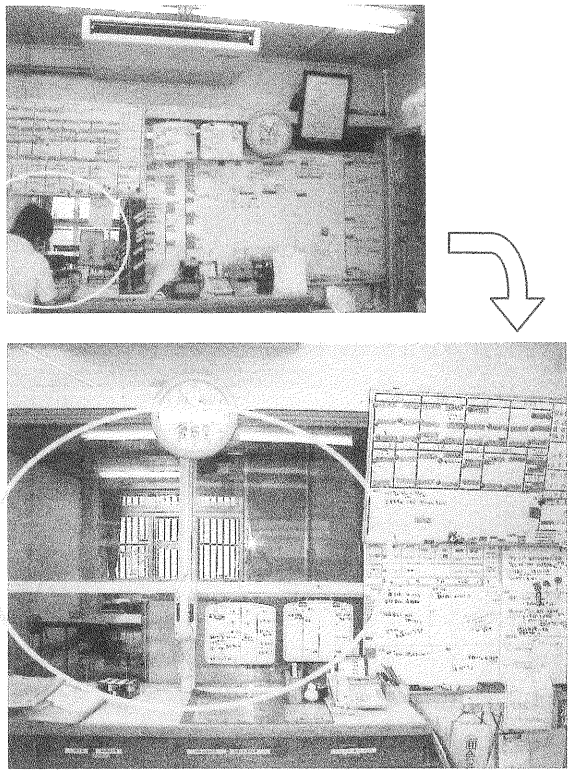

図4　精神科病棟ナースステーション

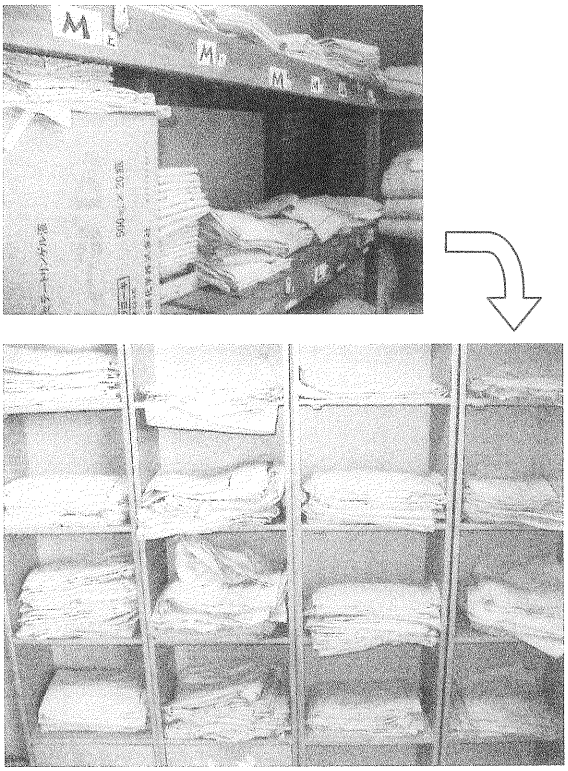

図3　脳外科病棟リネン室

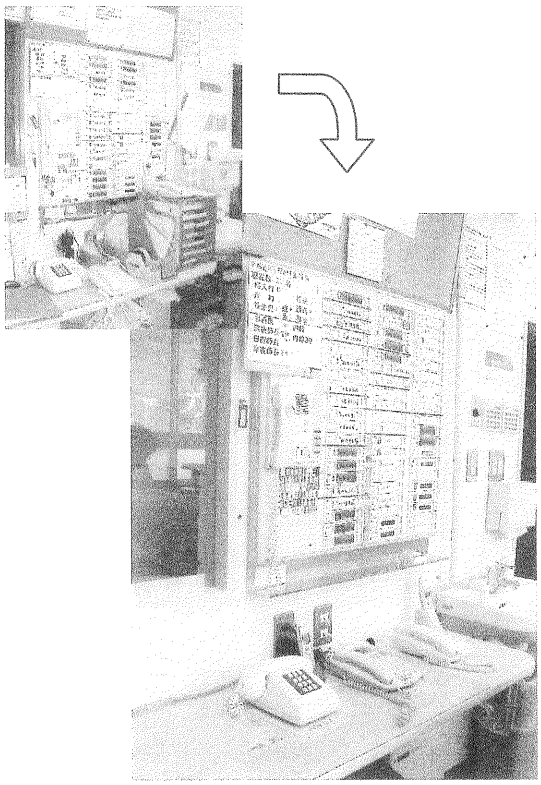

図5　産婦人科ナースステーション

Ⅵ. 考　　察

目標管理の導入を契機に受身的な研修から，看護助手同士で話し合い，看護部目標，病棟目標に連動した活動を行った。説明会後は看護単位ごとに行動計画を立て，全体の進捗状況を確認しながら主体的に環境整備や業務改善に取り組むことができた。

高原は，「整理とは，必要なものと不要なものを分け，不要なものを捨てること」「整頓とは，必要なものがすぐ取り出せるように置き場所，置き方を決め，表示を確実に行うこと」[1]と述べている。実際に整理整頓を徹底し，表示を明確にすることを実践した結果，看護師室や廊下の表示，書棚，伝票ケース，水回り，衛生材料や病衣寝具等の収納場所が改善され，スペース有効利用，業務の効率化を図ることができた。

このように５Ｓ実践活動は療養環境，職場環境など目に見える部分の改善活動であり，発表も具体的で評価がわかりやすく，実践活動の大変さも共有することができた。「難しいと思ったが取り組んでよかった。」「今回出来なかったことに引き続き取り組んでいきたい。」「仲間意識が高まった。」「感謝されるのがうれしい。もっとがんばろうと意欲がわいてくる。」などの感想から，研修を通して看護助手業務に対して達成感が得られ，職務満足度が向上したものと評価することができた。

ま　と　め

目標管理導入後，５Ｓ職場活性化活動を基盤にした２年間の看護助手研修から，目標設定・計画・具体策・実践・評価（自己評価および他者評価）というプロセスを体験することにより，職務満足度の向上に繋がるということを確認することができた。

看護部では，今後，看護助手連絡会を定例化し，全部署の看護助手が主体的な協力体制，業務改善が図れるように支援していきたい。

引用・参考文献

1）高原昭男，竹田綜合病院：病院５Ｓの進め方．日本プラントメンテナンス協会：36，2005.

2）野呂昌子，他：看護助手の主体的活動による生活の質の向上．日赤幹部看護師研修所同窓会々報　25：9-12，2003.

3）平井さよ子編：目標管理導入成功の方策．日総研出版，2003.

4）陣田泰子，他：成功を導く目標管理の導入方法．日総研出版，2004.